

教育方法・履修指導方法

本学の教育目標及び人材養成の目的を達成し、学生の意欲及び潜在能力を高める教育を実施ために、以下の教育並びに指導方法を導入する。

① 特色とする教育方法

ア 習熟度別クラス編成

語学教育、特に「イングリッシュスキルズ (基礎)」及び「イングリッシュスキルズ (応用)」については、入学時に英語の基礎学力テストを実施し、その結果を基にクラス編成し、学生の主体性と学修能力に応じたきめ細かい教育を行う。

イ 授業方法に適した学生数の設定

英語とコンピュータについて 23 名程度、演習及び実習は、45 名若しくは 90 名程度の学生数で行う。また、講義科目に関しても、90 名程度に分けることで教育効果の向上を図る。1 年次の渋谷キャンパスで実施する動物臨床看護学 (基礎) 実習に関しては、入学後の最初の段階で学生全員に直接動物と触れ合う体験をさせ、学生が自身の学修の目的を再確認し動物への確かな愛情を学修への原動力とするとともに、学生間において互いの多様な経験と感性の違いを受容し、共同して学修を進める上において極めて重要であるため、学生は 4 分割の 45 名で実施する。教員負担の軽減に配慮し、専任教員、非常勤講師で 4 分割したクラスを 2 チームの教員が 2 クラスずつ担当し、授業を行う。2 年次、3 年次の南大沢キャンパスで実施する実習科目である、動物臨床看護学 (内科) 実習、動物臨床看護学 (外科) 実習、動物臨床検査学実習、解剖生理学実習、アニマルアシステッドセラピー実習に関しては、教員配置や実習の習熟度に鑑み、1 学年を 2 分割して 90 名のクラスで実施するが、実習内容と教育効果を高めるために 23 名に対して 1 人の助手がサポートに入っているため授業への支障は無い。1 科目にそれぞれ 2~3 名の教員がすべてのクラスを担当し、オムニバス形式で専門分野を分けて授業を進める。これにより、すべてのクラスがほぼ同レベルの教育を受けることができる。また、コンパニオンアニマルケア (グルーミング) の実習では、前期に 90 名を 2 分割し 45 名で 2 クラス、後期に 90 名を 2 分割し 45 名で 2 クラスの授業が行われる。すべての実習で、それぞれ 4 名の助手が授業をサポートして、教員の負担が過重にならないよう配慮されている。

ウ 授業科目の段階的履修

教養教育科目を 1 年次から 3 年次に配置するとともに、将来の進路を踏まえ、それぞれの教育研究に対応した専門的な学修の為に、専門教育科目のうち、専門

基礎科目は、大部分の科目を2年次までに履修する。また、専門教育科目のうち、専門応用科目群は、必修科目を主として1年次、2年次において履修し、選択科目を3年次、4年次において履修して系統的で段階的な履修を可能とする。

なお、実習科目については、次のように段階的な履修を行う。

家庭の事情等により、これまでコンパニオンアニマルとの触れ合いを経験して来なかった学生、触れ合う経験が少なかった学生を含め、入学後の最初の段階で学生全員に直接動物と触れ合う体験をさせることは、学生が自身の学修の目的を再確認し動物への確かな愛情を学修への原動力とするとともに、学生間において互いの多様な経験と感性の違いを受容し、共同して学修を進める上において極めて重要である。そこで、多くの実習科目の導入段階として「動物臨床看護学（基礎）実習」、「コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習」を1年次で履修することにより、代表的なコンパニオンアニマルであるイヌの扱いに慣れ、イヌと触れ合うことが学生の今後の理論学習への動機付けとなり、そこから本学の目指す教育がスタートする。また、これらの基礎実習は、2年次において履修する「コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習」、「動物臨床看護学（内科）実習」、3年次において履修する「動物臨床看護学（外科）実習」、の準備段階としてその基礎となるものである。従って上述の基礎実習科目を1年次において他の講義科目と並行して履修することが不可欠である。

実習科目は、同じ分野の理論科目と同時期又は履修後に履修する。また、動物看護学とコンパニオンアニマルケア（グルーミング）に関する実習科目は、基礎、内科、外科、総合の段階、又は基礎、応用、総合という段階を経て履修する。

エ アssenブリーアワー（動物と看護）等

動物と人との共生は、生命を共有し、その生命の尊厳においては同じであるとする。学園の建学の精神と大学教育理念を学び、「動物愛護の精神に則り共生の思想と倫理観を備える」ための科目でもあり、重要な科目として位置づけられる。1年次においては、本学の動物看護教育に対する歴史的変遷を教授し、動物看護の重要性を認識させる。2年次においては、地球温暖化による動物生態系の変化、環境変化における生態の変化を知ることにより、生命重視の精神を養わせる。3年次においては日本の文化である鳥類や小動物を対象として発達してきた文化遺産の歴史の伝統継承をとおして、日本における動物と人の関係を体系的に学ばせることにより、

動物看護学に対する教養の充実に努める。また、これらを通じて豊かな人間性や課題探求能力等の育成及び、社会人としての基礎力の育成に努める。

オ コース制の導入

動物看護学部では、入学後における学生の興味・関心や卒業後の進路について柔軟に対応できる緩やかなコース制を採用し、「動物看護コース」、「動物応用コース」、「動物介在福祉コース」の3コースを設ける。

学生は、2年次後期までは、各コースに共通の教養教育科目並びに専門基礎科目を履修する。各コースの基礎となる基礎的知識・技術を理解した上で、3年次前期から各コースに所属し、それぞれの専門的な知識や能力を身に付ける。実施に当たっては、入学時及び2年次前期に履修ガイダンスを開催し、各コースの特色並びに履修モデルを説明するとともに、必要に応じて個別の履修指導を行う。

なお、科目の履修は、所属するコースに基づいて各科目群より履修することを基本とするが、他の専門領域を理解するために、他のコースに配置した科目についても履修することが可能であり、興味に応じてフレキシブルに選択・学修することが可能な緩やかなコース制であることを特色とする。

② 履修指導方法

ア GPA 制度の採用

本学では、学生の学修意欲並びに潜在能力を向上させるための成績評価として、GPA (Grade Point Average) 制度を実施する。学生の成績評価法として、授業科目ごとの成績評価を5段階 (S、A、B、C、D) で評価し、それぞれに対して、4、3、2、1、0 のポイントを付与し、この単位当たりの平均 (GPA) を算出する。授業科目の成績評価は、S (100点～90点)、A (89点～80点)、B (79点～70点)、C (69点～60点) 及びD (59点以下) の五段階とし、S、A、B、C を合格、D を不合格とする。なお、GPA が基準に満たない学生については学修指導を実施する。

具体的には、半期毎に GPA を算出し、ひとつの学期における GPA のポイントが 2.0 未満の学生についてはクラスアドバイザーから注意と学修指導を行う。2.0 未満の学期が 2 回連続した場合は、学科長及び学年主任から、3 期連続した場合は、学部長から学生に対して、注意、学修指導を行う。

GPA のポイントによる段階的な学生指導により、学士課程卒業の質を確保し、優秀な人材を送り出すことを実現する。

イ 履修科目登録における単位の上限設定

学生が1年間に履修科目登録できる単位数の上限を設ける。これにより設定し、履修科目の過剰登録を防ぐことを通じて、教室における授業と教室外学修を合わせた充実した授業展開を可能とするとともに、学生が各年次にわたって適切に科

目を履修し、少数の授業科目を効果的に学修できるようにすることにより、単位制度の実質化を図る。単位数の上限は、3年次の「動物病院実習」、3・4年次の「インターンシップ」及び4年次の卒業論文に備えて2年次及び3年次前期までに履修する科目が多くなることを踏まえて、22単位とすることが妥当である。

ウ クラスアドバイザー制度、オフィスアワーによる学生の個別指導・支援

各学年に4名のクラスアドバイザー（専任教員）を配置する。アドバイザーは、「履修指導」、「基礎学力が不足している学生に対する指導」、「学修上の問題、悩み等に対する生活指導」、「学友会活動の支援」、「課外活動の支援」、「成績不良者や長期欠席者への支援」など学生の学修並びに学生生活全般にわたる4年間を通じた支援をする。

また、学生の相談に応じる時間として、毎週授業2コマ分に相当する時間をオフィスアワーとして設定し、年度当初に学生に周知することで教員とコミュニケーションを取る時間を明確にする。

エ シラバスの活用

教育内容の周知、科目選択、学修及び各授業科目間の調整ができるよう講義内容、授業計画、成績評価基準及び方法、教科書の指定及び参考文献などを記載したシラバスを作成し、オリエンテーション時に履修方法について徹底した指導・説明を行う。